様式２

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：法と政治
部会長名：中村覚
作成者名：中村覚

概要（2000 字）

1. 評価概要

当部会は、法学と政治学の科目をバランスよくラインアップして開講し、学生たちに対して、国内社会と国際社会の両方に関する法学・政治学的な講義を履修できる選択肢を十分に提供することを目標としている。平成 22 年度においても、この目標は十二分に達成されたと考えられる。授業の実施に際しては、当部会の科目の性格を鑑みて、講義を中心とする授業形態をいかに工夫できるのかという点が基本的な課題となるが、各教員の取り組みにより、学生評価の結果からは、講義は有意義であったと評価されたと言えるだろう。

2. 講義の内容と方法

下記のように、各教員の専門性の高さや、最新の研究を反映している点で、各シラバスの内容に関しては、現代の国際問題・国内問題に関する視角を涵養するに適切なレベルを保っている。時事的な問題意識の涵養を図ると共に、それらの題材に関する解説を学術的・原理的・構造的に理解させようと工夫している。

2009 年 5 月から施行された裁判員制度に関する講義では、いつ裁判員候補者として呼び出されることがあっても対応できる市民的教養を培うことを目標して，裁判員のための刑事法ガイドとするべく，裁判員法，刑法および刑事訴訟法についての基本が講義された。また、民法や刑事司法制度の現状と課題を考えるという法学の基本に関わる講義が例年通り、開講された。

また日本政治では、2009 年半ばに政権交代があったことから学生の関心も高くなっており、担当者は、現実の動向を踏まえながら新聞等の切り抜きを補足資料として随時配布するなど、授業への関心を高めるよう工夫した。また、単なる時評論にならないよう、学術的な視点からの補足プリントをほぼ毎回配布した。また、自発的な学生の取り組み用の課題として、日本政治の構造と変容という大きな主題の下に、レポートの提出が提示された。

近現代の政治思想史を学ぶ講義が開講されたが、人間にとって政治とは何なのか、原理的・論理的に思考する能力を養うことが目標とされた点で、教養言論にふさわしい科目を開講できた。

国際社会に関しては、グローバル社会の動態や、平和や安全の達成という問題に近年関心が高まっているが、本部会では、先進国の取り組みと、途上国のダイナミックな変化の双方に関して、国際法的、政治学的、開発学的な各視点からの講義を配置することができた。

国際社会では、どのようにして平和と安全を維持しようとしているのかに関して、国際法の観点から検討する科目を開講した。その際には、国際法の理解のため基本的な国際法原則の説明が行われ、国際社会の法構造の理解も講義の目的とされる工夫が施された。また、国際政治学的な観点では、地域紛争や内戦、テロリズムの解決という国際政治学的な課題が特に問題となっていることに対応し、国際紛争、国内紛争の構造、難民や国内避難民の具体例や、それらに対して各国政府、国際組織、NGO などがどのような対応を行っているのか、政策的議論が可能な視点からの講義が開講された。

現在のグローバル社会の実態を大まかに総体として理解することを目標とした授業では、冷戦構造崩壊後、一層の市場原理主義の浸透と米国単独行動主義がさまざまな矛盾を生み、さらに 9・11 テロを契機としてそれらが大きな転機を迎えている状況に関して、具体的な実態に基づきながら、それらが内包する政治経済の意義が検討された。難解なテーマであるので、教養の授業にふさわしいレベルとなるように、知識の習得だけではなく、視点の涵養を重視する講義方法が工夫が試みられた。

3. 授業の形式

当部会の性格から、授業の基本は講義形式にならざるを得ないが、授業の最初にクイズを示してその日のポイントを意識させたり、視聴覚教材を活用したすりするほか、毎回学生に感想を提出させたたり、学生間が教室で意見交換をしたりする機会を何度か設けた授業もある。特に、学生の体験できない政治問題や法的経験に関しては、視聴覚教材も効果を発揮したようである。講義の最後に、ポイントのまとめとしてクイズを行う工夫していた授業もあったが、90 分の中にメリハリを生もうとする工夫が試みられている。

授業の時間の中で都合上扱うことのできなかった教科書の範囲や、政治学・法学的題材に関しては、レポートを提出させ，自習を促した工夫がいくつかの講義で見られた。

また、裁判員制度について場合では、映画を教材として用いることで受講生が裁判の場を身近に感じられるように工夫しただけではなく、希望者には裁判傍聴レポートも提出させ，単位認定の参考材料にしたように、教室以外の体験を促す試みが展開されている。

4. 課題

まだ各教員において、授業の取り組みには工夫の余地があると言うことができる。「板書が見づらい」という指摘がアンケート寄せられたケースがあり，板書に代えてパワー・ポイントの導入を検討している担当教員もいる。

また教育する側の環境として、数年間継続して授業を担当している教員の場合にはさまざまな工夫を付け加えやすいが、当部会の担当教員の中には、新任の者が配属されていたり、数年に一回の担当者がいたりすることから、慣れない状況で開講する担当者を構造的に数名抱えるという難しさを当部会は孕んでいる。新規に授業を担当する教員の場合には、学生のレベルに不慣れであったり、大教室での講義という環境に戸惑いが生じたりする中で、対応や工夫が間に合わない事例が起きやすくなっており、構造的な改善措置が求められる。前任教員への評価を後任の教員にも引き継ぐなどの工夫により、課題を周知徹底し、予め対応をたてるよう注意喚起を促したい。

様式２（続き）

<u>項目・観点ごとの記述</u>

基準５　教育内容及び方法

５－１－②：　授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

（観点に係る状況）

国内社会と国際社会の両方に関する法学・政治学的な講義を履修できる選択肢を十分に提供した。

根拠資料　シラバス

５－１－③：　授業の内容が，全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

（観点に係る状況）

教員の専門分野を反映したシラバスが作成され、係る見地から授業が実施された。

根拠資料　シラバス、プリントや板書などの教材

５－１－⑤：　単位の実質化への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）教員や科目毎に、学生の達成度を想定せざるを得ないが、レポートの回数や内容を工夫することにより、学習意欲を刺激したり、単位を取りやすくしたりする配慮が複数の教員に見られる。

根拠資料　授業中の課題、プリント。

５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば，少人数授業，対話・討論型授業，フィールド型授業，多様なメディアを高度に利用した授業，情報機器の活用，ＴＡの活用が考えられる。）

（観点に係る状況）

単なる講義に陥らないように、学生との間で双方向的な関係を生み出すために、感想用紙や質問票を配布・回収した場合が多く見られた。また、毎回の授業の最初ないしは最後にクイズを行ったりして興味を涵養したり、まとめ・復習に活用する場合があった。視聴覚教材の活用も多くの授業で行われている。

根拠資料　プリント、自己評価に関する教員の回答

５－２－③：　自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

（観点に係る状況）

授業の時間の中で都合上扱うことのできなかった教科書の範囲や、政治学・法学的題材に関しては、レポートを提出させ，自習を促した工夫がいくつかの講義で見られた。最新の国内・国際問題に関しては、本という形態で教科書を探すのは難しく、プリント配布で対応した講義が多い。

担当学生が複数の学部からの履修者であるため、授業のレベル設定には、注意が必要とされる問題に直面している。特に新規に担当する教員の場合、授業内容のレベルが難しくなりすぎというミスマッチが生じがちである。これらの点に関して、担当教員に対して周知徹底を図り、手間がかかるものの、連絡を繰り返し行うよう促したい。

根拠資料　シラバス、自己評価に関する教員の回答

５－３－②：　成績評価基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。
（観点に係る状況）
各教員に工夫は任されているが、小テストを繰り返したり、レポートを四回も課したりするという慎重な方法を期す教員もいる。

根拠資料　小テスト、答案、レポート、出席簿

基準６　教育の成果
６－１－③：　授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。
（観点に係る状況）
おおむね、学生からは有意義だったと評価されたと理解してよい学生評価結果を受けたが、教員の側には戸惑いがあると言うことができる。自由回答欄で「今まで受けた教養原論のなかでは一番積極的に受けられる身のある授業だった」と記された授業があった一方で、学生の評価を理解するにはデータ不足であると感ずる教員がいる。また、授業が平均以上の肯定的な評価をおおむね受けたとは言っても、「あまり高い評価とは言えない」と反省する教員も数名いる。
特に、初めて担当した教員の間では、「学生授業評価で専門的で難しすぎるとされた」場合や、前任の大学との相違を感じた事例が報告されており、学生のレベルをあらかじめ理解して、対処するかという課題への対応が必要であると指摘されている。

根拠資料　授業評価の結果、各教員からの評価報告に関する回答

基準７　学生支援等
７－１－②：　学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。
（観点に係る状況）
行われている。また、学生が質問をしやすくなるように、感想や質問票を毎回の授業で提出させたりするなどの工夫がされている。

根拠資料　感想用紙、質問票、シラバス